

《実績》

コロナ禍の中、2022年度は2021年度より手術症例は若干減少した。しかし、別表のごとく、ヘルニアを除く術式の腹腔鏡手術の割合は当院でも50%近くになった。

ところで、当院は、一般病院であるので胆道がんの比率が多いわけではないが、胆管癌に先行する前浸潤性病変である胆管内乳頭状腫瘍 (intraductal papillary neoplasm of the bile duct; IPNB) を3例経験したので第34回日本肝胆膵外科学会学術集会に報告した。IPNBは比較的稀な腫瘍で胆道腫瘍の4-15%とされている。浸潤転移が比較的少ないため予後は通常の胆管癌よりやや良いが、スキップや胆管内播種など、独特の進展を呈することがあるため、根治には慎重な手術計画が必要である。粘液産生を呈する典型的なIPMNでは特に転移が稀であることからリンパ節郭清は控えめで良い可能性がある。しかし、粘液のために術前の進展評価が困難であることがあり、根治切除には十分なマージンをとって切除する必要があると思われた。

		その他	腹腔鏡
食道	胸部食道胃噴門部切除		
	その他(ESD)		
胃	幽門側胃切除術	9	6
	胃全摘術	8	
	噴門側胃切除術	0	
	胃部分切除術	0	0
	胃その他手術(バイパス試験開腹)	1	0
	胃(ESD)	1	
大腸	イレウス解除術	11	0
	虫垂切除術	0	17
	回盲部切除	6	5
	S状結腸切除	2	5
	右結腸切除	14	5
	バイパス	0	
	左(横行)結腸切除	5	2
	人工肛門造設術	6	1
	人工肛門閉鎖術	6	
	高位前方切除術	2	6
	低位・超低位前方切除術	1	6
	腹会陰式直腸切断術	2	1
	経肛門的直腸腫瘍摘出術	0	
	Hartmann手術	2	
	大腸全摘・亜全摘術	0	
	痔核、裂孔、痔瘻など	10	
骨盤内臓全摘術	0		
肝胆膵	HPD	0	
	PD	7	
	膵全摘	0	
	膵体尾部切除	2	
	肝切除(部分切除)	2	
	肝切除(垂区域切除以上)	2	
	肝門部胆管癌手術	1	
	胆嚢癌手術	1	
	胆管空腸吻合術	2	
	胆嚢摘出術	1	52
胆管切開術	2		
脾摘	0		
ヘルニア など	鼠径ヘルニア	125	
	大腿閉鎖孔ヘルニア	1	
	腹壁ヘルニア	3	
	汎発性腹膜炎手術	3	1
	その他(局麻)	0	
	その他(全麻)	5	2
合 計	243	109	